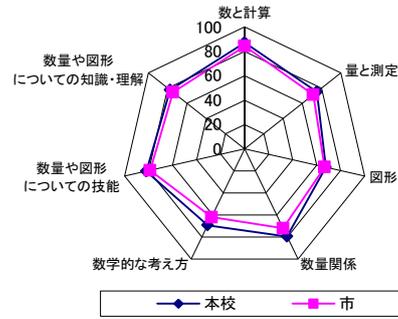


宇都宮市立今泉小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	87.1	84.3
	量と測定	75.1	71.3
	図形	67.7	66.7
	数量関係	79.5	72.1
観点別	数学的な考え方	69.4	62.0
	数量や図形についての技能	81.9	78.8
	数量や図形についての知識・理解	77.5	74.6



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>・分数の計算がほとんどであったが、全問題において市の平均を上回り、しかも7問中5問は正答率90%を超えておりよく理解されている。市の平均と比べて7.6ポイントと特に正答率が高かったのは、分数の逆数を答える問題であった。また、正答率が低かったのは、分数の容量と重さから1Lの重さを求める式を答える問題であった。</p>	<p>・分数の計算については十分理解がなされているが、今後は、分数と小数が混じった計算や3連以上の分数同士の計算に取り組むなど、さらに反復練習を進めたい。また、分数の計算を用いる文章問題においては、文章をよく読み取って、分かっていることを図や線分図に書き表して式を導いていく方法を再度確認させていきたい。</p>
量と測定	<p>・速さと、面積や体積を求める問題であった。まず、速さを求める問題では、正答率は60%程度だが、市の正答率に比べて13ポイント以上も高かった。速さと時間から道のりを求めたり、時速を分速に直したりすることがよく理解されていた。次に、面積や体積を求める問題では、三角形や円の求積は、正答率が90%を超えて高かった。しかし、平行四辺形やひし形の求積において、市の正答率を下回った。平行四辺形を三角形の面積を求める公式と混同していたり、底辺と高さのとりえ方があいまいであったりしたための誤答が多かった。</p>	<p>・いろいろな図形の面積の求め方の公式をもう一度確認し、しっかりと覚える。その際、どのようにしてその公式が導き出されたのか、その手順を再度思い出させる。また、面積を求めるのに必要な要素(底辺、高さ、対角線など)はどこなのか、その要素同士の関係や位置についてもとらえられるように指導する。そして、さまざまな図形について面積を求める問題に数多く取り組んでいく。</p>
図形	<p>・対称な図形、正多角形、円周、三角柱と円柱などの問題であった。点对称な図形において対応する点を答える問題では、正答率92%とよく理解されていたが、線対称な図形の対称軸の数を答える問題では、市の正答率を下回った。また、円を使って正多角形をかく方法について答える問題では、市の正答率を8.8ポイント上回ってよく理解されていたが、円の半径から円周を求める式を答える問題では、市の正答率を下回った。半径を直径と勘違いしたり、問題文章を読み違えて円の面積を求めてしまったりしたようである。</p>	<p>・線対称な図形において、対称軸や対応軸と対応する点どうしを結んだ線との関係などについてももう一度復習したり、実物を使った作業を通して確かな知識としていく。また、円周を求める公式を再確認し、練習問題を解くことによって定着を図っていく。</p>
数量関係	<p>・比と比例・反比例、文字の式、百分率とグラフの問題であった。すべての問題において市の正答率を上回っていた。特に比の値を答える、文章に記された関係をXとYを使った文字の式で表す問題では、90%を超えた高い正答率が見られた。また、比例するXとYの関係を式の表す問題や表のデータから割合を求める問題、割合から比較量を求める問題など、正答率は75%程度であったが、市の正答率を10ポイント以上、上回っていた。最後の問題の、必要な資料を見て計算しなくても結論を導くことができる理由を説明する問題では、示された2つの言葉を適切に用いて意味の通る説明ができた児童が59%おり、これも市の正答率より9.8ポイント上回っていた。</p>	<p>・比例・反比例の意味をもう一度復習し、2つの数の関係を表や式、相互に表す活動を行い、具体的な問題に数多く取り組むようにさせる。また、割合においては、もとにする量、比べられる量、割合の3つの関係を再確認し、それぞれの求め方を繰り返し練習する。そして、生活の中で用いられている割合(～割引、打率など)をもう一度見つけるなどの活動を通して、理解を深めていけるよう指導する。</p>